

山崎健史主任研究員

皆さんは何かを収集する趣味をお持ちでしょうか？ 切手、コイン、レコードなど、人それぞれ実に多様な収集の趣味があるかと思っています。実は博物館も、趣味の収集とはちよつと動機が違います。兵庫県をはじめ世界の自然物の証拠を後世に残すため、さまざまな資料を収集し保存しています。博物館の存在意義はまさにこの点に尽きます。

私の場合は研究対象のクモ類を集めているのですが、クモの中には、なかなか見つけづらい、いわゆる珍種というクモが7種類あります。クモを研究している専門家やアマチュアの間では有名な七大珍種を紹介したいと思います。

まず、トリノフンダマシという



クモの仲間の、サカゲチトリノフンダマシ、ツシマトリノフンダマシです。トリノフンダマシという和名にもあるように、一部の種は鳥のフンのような模様を持っています。その中でも、ツシマトリノフンダマシは、鮮やかなオレンジ色の腹部に黒い斑点模様があるため、一見すると TENTO ウムシのように見えます。

次に、投げ縄のように粘球の付いた糸を振り回してガを捕らえるムツトゲイセキグモ、マメイタイセキグモです。北米に生息する近縁種は、体からガのフェロモンに似た化学物質を放出して、オスのガを引き寄せるようです。

さらに、スコーピオンスパイダーの異名があるキシロオヒキグモ、ごつごつした腹部のワクド



ツシマトリノフンダマシ



ワクドツキグモ(東京大学の谷川明男さん撮影)

モ、ごつごつした腹部のワクドツキグモが珍種として有名です。これら6種は、糸を使って狩りをするコガネグモ科の仲間です。

最後のレア種は、カトウツケオグモです。この種はカニグモ科の仲間で、葉っぱの上で餌生物を待ち伏せて狩りをするタイプの種です。こちらもトリノフンダマシ類のように鳥のフンっぽい色彩をしています。



カトウツケオグモに近縁な仲間(タイにて撮影)

ています。

これらレアなクモ類ですが、近年はスマホでの写真撮影が身近になったことや交流サイト(SNS)で気軽に写真を共有できることから、ネット上で写真をよく見かけるようになりました。今後、さらにクモに注目する人が増えると、意外と普通にいるクモだった…なんてことが明らかになるかもしれません。ちなみにワクドツキグモは、お隣の岡山県や大阪府では記録がありますが、まだ兵庫県での記録はありません。クモを趣味にしてみたいという方は、ぜひ兵庫県のワクドツキグモの第1発見者を目指してみたいはいかがでしょうか。

ひとはく
研究員
だより

クモの七大珍種

県内では未発見の種も